

No. 1199

# 新春の天皇ご一家

おだやかな春の日ざしに包まれた皇居。

1977年の新春を天皇ご一家はすこやかに迎えられました。天皇陛下は今年76歳の誕生日を迎えられますが、ますますお元気。

乗馬を楽しまれる皇太子ご一家、殿下のよき指導のもと、浩の宮さま、礼の宮さまはめきめき上達されました。

お孫さんの明るいかけ声が響く天皇ご一家です。

# えと造りの町 —愛知・常滑—

土と炎の町、と言われるほど焼きものの町として有名な愛知県常滑市。町のいたるところに立つ焼窯の煙突がその歴史の古さを感じさせる。この町は古くから良質の土に恵れ、多くのすぐれた陶芸品を生んできた。

昭和52年、今年のエトは巳。これにちなんだヘビの置物が盛んに造られている。手作りの作業では需要に間に合わず、作業の多くが機械化され、大量生産されている。置物の材料は朱泥（しゅでい）と呼ばれる土を使う。

形をきれいに整えて、化粧をさせる。最後の仕上げは電気窯、見ごとに近代的な置物に変る。

しかし、時代が変ってもただひたすら常滑焼の古い手法を守り続けている多くの陶工家たちがいる。

前川指月さん65才、この人もそのひとりである。陶芸の世界に踏み入れて45年、常滑焼ひとすじに生きてきた。

今、ひとつのエトの作品に取り組む、指先きが土塊の上を走る。静かに時が流れ、ヘビはその姿を徐々に現わしていく。

前川さんと土との沈黙の対話が続きやがて生きたヘビのカタチが造り上げられる。900年続いた常滑焼の伝統と土にかけるひとりの陶工家の姿がそこにあった。